

意見公募（パブリックコメント）の結果

- 件 名 新 川北町総合計画（案）について
 ○意見等の募集期間 令和8年2月26日～令和8年3月13日
 ○意見等の受付件数 13件（2名）

1 寄せられた意見の内容を整理し、その概要を掲載します。

(1) 新 川北町総合計画（案）についての意見

番号	寄せられた意見等の概要	町の考え方
1	82 ページ「施策 5-4 持続可能な上下水道」 評価指標の上水道料金回収率、下水道経費回収率の差が少なく、目標値として掲載する意味があるか。	施設の経年劣化、老朽化が進行する中で事務効率化や経費節減を進めており、これ以上、数値が低下しないよう目標値を定めて、努めていくものです。
2	102 ページ「(5) 公共インフラの長寿命化」 「水道及び下水道施設においては、管路等の耐震化も含めて維持管理等を推進していきます。」とありますが、水道の管路は、修繕・保守の維持管理のみで、更新の計画がない以上、耐震化の推進が進むのか。何か施策があるのか。	通常修繕の際は、衝撃に強いHIVP管（塩ビ管）により修繕しています。 また、大規模な開発や地区による宅地開発整備では、耐震管（高密度ポリエチレン管）を布設、整備していることから、少しずつですが耐震化率は向上しています。
3	11 ページ「産業別就業者の構成比の比較のグラフ」 就業者の人口構成だけでなく、経済的生産高や売上高の構成も見るべきではないか。	計画への掲載は紙面に限りがあることから、就業者に関するデータを掲載していますが、計画策定においては、統計データやヒアリング、打ち合わせ等で産業面での把握をし、計画に反映させています。
4	14 ページ 住民ニーズの状況（3）町の魅力について 「自然環境が良い」の回答が 55.1%であり、町の魅力の「自然環境が良い」が継続するように。また、自然環境が良いと感じる部分はどこか。	町民へのアンケート調査の「町の宝と魅力」の自由記述欄には、「手取川の自然環境」、「田園風景」、「自然環境（全般）」、「桜づつみ」、「白山の眺望」などの自然環境に関する意見が多く寄せられ、町の魅力を大切に守っていく必要があると考えています。

5	14 ページ 住民ニーズの状況（3）町の魅力について 農地が減っていくことが気になり。農地が減れば自然に対する魅力度も低下するのではないか。	無秩序な開発を抑制し、適切な土地利用が出来るよう、調整に努めます。
6	23 ページ 町の特性・魅力1 手取川と霊峰白山に抱かれた景観豊かなまち 田園風景を守る必要がある。農地を減らしてはいけない。	無秩序な開発を抑制し、適切な土地利用が出来るよう、調整に努めます。
7	23 ページ 町の特性・魅力3 農業と工業が盛んなまち 農業が盛んとは、どれだけ盛んなのか。どんどん盛んになっているのか、衰退しているのか。数値的な状況把握や分析が必要と思う。	当町の農地の集積率が 85.8% (R5) となっており、県内や国の平均を大きく上回っており、耕作者は集落営農、農業法人、認定農業者等により、効率的に営農されており、耕作放棄地もないことから、「農業が盛んなまち」と考えています。
8	30 ページ 今後のまちづくりに向けた主要課題の整理（4）産業の活性化 企業誘致の為に工場用地は農地転用するしかないわけで、優良農地の保全と企業誘致の両立は難しい。どこでバランスを取るのか、どんなプロセスで決定していくのかを示すべきではないか。	人口動態や産業構造の変化、気候変動などを考慮したうえで、住宅地や産業用地の確保、防災や環境保全の観点を織り交ぜ、社会経済と自然環境の調和を目指す計画とします。
9	30 ページ 今後のまちづくりに向けた主要課題の整理（4）産業の活性化 農業の担い手は育成可能だが、農地を工業用地に転用したらもとは戻らないことを考えて決定していかねばならない。	人口動態や産業構造の変化、気候変動などを考慮したうえで、住宅地や産業用地の確保、防災や環境保全の観点を織り交ぜ、社会経済と自然環境の調和を目指す計画とします。
10	31 ページ 今後のまちづくりに向けた主要課題の整理（5）洗練された住環境の充実 ■計画的な土地利用の誘導、 ■空き家対策と社会基盤等老朽化対策 集落周辺の宅地化は今後減らして、集落内に増える空き家跡地を整備して、道路をつけ新しい住宅地として再開発する方向に転換すべきである。集落周辺に拡張することは、上下水道施設や	町と致しましては、宅地開発を集落周辺に限定しているわけではありません。集落内における空き家の増加は全国的な問題であり、空き家の利活用促進は川北町においてもとても重要かつ有効な施策の一つであると考えています。また、集落内の再開発により道路整備などを伴い周辺住宅の移転なども考えられることから、地域にとって様々な方法

	<p>消雪施設なども拡張が必要。人口減少の時代にインフラ施設を拡張するのは無駄ではないか。集落内なら既存の施設を使える部分もあるだろうし、老朽化が進んでいけば更新しながら宅地開発ができる。</p>	<p>で、より良い宅地開発を図ることが、重要であると考えています。</p>
1 1	<p>31 ページ 今後のまちづくりに向けた主要課題の整理(5)洗練された住環境の充実 ■景観の質的向上 集落周辺の白地農地は家庭菜園用に貸し出してはどうか。</p>	<p>地域間交流や健康増進、趣味づくりの取り組みとして地域の特色を反映できるものと見込まれることから、今後、地区の要望等を聞きながら支援策等を検討したい。</p>
1 2	<p>37 ページ 適正な土地利用の誘導に向けた基本的考え方である「農業振興地域制度」と「開発行為指導要綱 都市計画制度 等」の2つは両立するのか。</p>	<p>人口動態や産業構造の変化、気候変動などを考慮したうえで、住宅地や産業用地の確保、防災や環境保全の観点を織り交ぜ、社会経済と自然環境の調和を目指します。</p>
1 3	<p>38・39 ページ (2)土地利用の方針 農業振興ゾーンが減り、産業振興ゾーン(開発予備地)が増える計画に見える。産業振興ゾーン(開発予備地)が大き過ぎるのではないか。 農地の減少は農業生産高の減少に直結するので、農業を衰退させる方向になっていないか危惧する。 農業振興の指標として生産高や売上金額でも見て振興度合をチェックする必要がある。</p>	<p>開発予備地はあくまでも候補地であり、すべての土地が開発地となるわけではありません。人口動態や産業構造の変化、気候変動などを考慮したうえで、住宅地や産業用地の確保、防災や環境保全の観点を織り交ぜ、社会経済と自然環境の調和を目指します。</p>

問合せ先 川北町役場総務課 (TEL076-277-1111)